

鹿児島国際大学社会福祉学会誌

ゆうかり



第25号

鹿児島国際大学社会福祉学会編集

目次

巻頭言	「ゆうかり」第25号によせて	社会福祉学会 会長 茶屋道 拓哉…	P1
新任教員の挨拶			
1-1	着任のご挨拶	福永 宏子	P2
1-2	着任のご挨拶	藤島 法仁	P3
特集	ゆうかり編集委員会企画		
2	—おすすめの本を紹介します—	淡路・大久保・岡留・種子田・ 原田・益山・右田・安田・米澤・ 山下教員	P4
社会福祉学科のとりくみ			
3-1	一日大学生体験	有村・川崎・中井・藤島	P13
3-2	新入生ゼミナールの取り組み紹介	古賀・永富・林・福永・藤島	P14
3-3	2025年度社会福祉士国家試験受験対策 —今しかできない大学生活のあれもこれも、全力で！—	大山・小松尾・山下	P15
3-4	演習論文報告会	松元	P16
社会福祉学科トピックス			
4-1	ソーシャルワーク実習 —学生の感想と教員のコメント—	(担当教員：小松尾)	P17
4-1-1	高齢者分野	川崎教員担当：原田	P17
4-1-2	障害者・児分野	小松尾教員担当：谷口	P17
4-1-3	子ども分野	有村教員担当：小野	P18
4-1-4	医療分野	山下教員担当：中間	P18
4-1-5	福祉事務所分野	大山教員担当：軍神	P19
4-1-6	社会福祉協議会分野	藤島教員担当：堀之内	P19
4-2	精神保健福祉士養成課程の取り組み	茶屋道・林	P21
4-3	介護福祉士課程	岩崎・中井・福永	P25
4-4	教職課程（特別支援教育実習を中心に）	古賀・永富・松元	P29
最終講義			
5	地域福祉への道—32年間を振り返って	松元 泰英・高橋 信行	P33
自主研究助成による研究報告			
6-1	社会福祉学会における自主研究助成について	林・福永	P37
6-2	研究報告：地域で自分らしく生活するとは	久保・山内・福永教員	P38
鹿児島国際大学社会福祉学会会則			P40
2024年度 鹿児島国際大学社会福祉学会・収支決算報告			P42
編集後記			P43
2025年度鹿児島国際大学社会福祉学会運営委員			P44

はじまるよ〜♪



『ゆうかり』第25号によせて

鹿児島国際大学社会福祉学会 会長 茶屋道 拓哉

2000年代中盤からわが国で語られ始めた「2025年問題」。少子高齢化に伴う人口減少の予測から言われ続けてきたことですが、私たちはいよいよその時代を生きていくこととなりました。この先も「2040年問題」が待っているなど、「〇〇問題」は時代とともに次々に生み出され、時には社会を抑圧するような言説にもなり得ています。しかし、私たちは時代の変化に合わせて「しなやか」に、そして「力強く」生きていく力を備えていると信じています。

さて、2025年は私たちの住む地域でも大きな自然災害が起きました。トカラ列島近海の群発地震、霧島連山（新燃岳）の噴火、そして台風12号による霧島市や始良市での大規模災害です。人々の生命や財産、持続可能な生活、メンタルヘルスなどへ大きな影響がもたらされました。そのような中、学生たちが様々な場所で被災された方々や事業所に寄り添いながら支援活動に取り組みました。また、本学会での活動ではありませんが、複数の教員が学生とともに地域の多様な団体や機関と協働する課題解決型のフィールドワークに取り組んでおります。こうした取り組みを学生（学会員）が主体となって取り組んでいることを心強く、そして誇りに思っています。

私たちは、このような活動の後押しをこれからも継続し、多様な学びの機会についてお力添えをいただきながら創出していく所存です。本誌をお手に取っていただき、またそうした機会の創出に対するお力添えや、アイデアをお寄せいただけますと幸いです。

最後になりましたが、本学会誌「ゆうかり」作成のためにご尽力いただいた山下先生はじめ、学会運営委員長の林先生、運営委員の先生方、学生運営委員の皆様、執筆者の皆様にご御礼申し上げます。

1-1 着任のご挨拶

社会福祉学科 福永 宏子

このたびご縁があって、こちらで教員としてお世話になることになりました、福永宏子です。どうぞよろしく申し上げます。

福祉の道へのきっかけ

私の福祉人生の始まりは、実はそれほど「志が高い」ものではなくテレビの番組でした。まだ学生だった頃、ある障害のある方の暮らしのドラマ番組を見て、「こんなふうに誰かのそばに寄り添う仕事があるんだ」と興味を持ちそこから、気づけばずっと福祉の世界に身を置いてきました。

介護福祉士として過ごした、濃密な現場の日々

最初は介護福祉士として、障害者施設での支援に携わり、その後は在宅分野へ。訪問介護やケアマネジャーなどを通して、地域で暮らす方々の生活に寄り添う日々を長く過ごしました。現場では、マニュアル通りにいかないことばかり。でも、だからこそ一人ひとりの「その人らしさ」に出会える面白さがありました。

「問い」を立て、研究と教育の現場へ

そんな中で、「もっと深く学びたい」「現場の経験を言葉にして伝えたい」と思うようになり、仕事をしながら日本福祉大学大学院の修士課程に進学しました。そして約7年前から、教育の現場に立つようになりました。

今、私が大切にしている問いは、「どんな場所、どんな地域でも、その人らしく暮らすには、何が必要だろうか？」ということです。制度や支援の仕組みももちろん大事です。でも、それだけではなく、地域の空気とか、人と人との関係とか“目に見えにくいもの”にも目を向けたいと思っています。私はこの問いを、学生の皆さんと一緒に、時には頭を悩ませながら追及していきたいと考えています。

語り継ぎたい、「昔の福祉」の温度感

今の福祉は、昔に比べれば制度も整い、ICTの活用も進んで非常にスマートになりました。それはとても喜ばしいことです。しかし、制度が整えば整うほど、こぼれ落ちてしまう「何か」があるような気がしてなりません。

私が現場に出始めた頃は、様々な人間模様に溢れていました。マニュアル通りにはいかない、人と人の「ぶつかり合い」の中にこそ、福祉の本質的な面白さがあったように思います。現場を長く歩いてきた私は、「あの頃はこうだったよ」と語り継ぎたいことがあります。技術や知識はもちろん大切ですが、その根底にある「人への好奇心」や「おせっかい」のエッセンスを、一つでも皆さんの心に手渡すことができれば、これほど嬉しいことはありません。

最後に：一緒に楽しみ、面白がり、成長しよう

授業では、まじめな話もしますが、できるだけ楽しく、面白く、一緒に学んでいきたいと思っています。正解を探すより、「なぜだろう？」と考えることを大切にしたい。大切なのは問い続け、そのプロセスを面白がることだと考えているからです。そして、学生の皆さんと私自身が、対等な立場で刺激し合い、共に成長していくことです。

どうぞこれから、よろしく申し上げます。一緒に、ちょっと不思議で、ちょっとあたたかい学びの時間をつくっていきましょう！



1-2 着任のご挨拶

社会福祉学科 藤島 法仁

2025年4月に着任しました藤島法仁（ふじしまのりひと）と申します。

私は鹿児島大学法文学部を卒業後、鹿児島大学水産学部の修士・博士課程に在籍・修了し、その後、福岡県久留米市（久留米大学に研究員として所属）、長崎県佐世保市（長崎短期大学に教員として所属）、広島県福山市（福山平成大学に教員として所属）に移り住み、25年ぶりに鹿児島に帰ってきました。

25年ぶりの鹿児島は商業施設やマンションが集積する地域がある一方、過疎化が進む地域があり、確実に変わってきているなという印象を受けました。しかし、慣れ親しんだ故郷に帰ることができて大変うれしく思っています。



さて、私は社会福祉学科で「地域福祉論」、「ソーシャルワーク演習」、「ソーシャルワーク実習指導」、「ソーシャルワーク実習」、「鹿児島福祉入門」、「新入生ゼミ」などを担当しています。これらの中で「地域福祉論」は生活の基盤である地域において、どのように住民相互の支え合いや制度・サービス、ソーシャルワークを展開するのか。言い換えると、地域の生活課題が多様化・複合化する中で、どのような支援体制を構築するのか、その基礎となる考え方を学ぶ科目です。地域の生活課題に関心をもち、皆さんとともに解決策を模索していくことができればと考えております。

私の研究についてもふれておきます。私は、高齢者の地域生活をどのように支援するかということをテーマに、これまでいくつかの市町村でフィールドワークを行ってきました。具体的には、市町村が事業を展開する方法と、住民が住民主体の支援・活動を開発する方法を明らかにし、要支援者や事業対象者など軽度な介護保険のサービス利用者の権利（あるべき最低限度の自由）を保障するために住民主体の支援・活動はどのような役割を果たしているのか。また、課題は何かを検討してきました。高齢化が進み、家族が小さくなる中で（未婚化も進む中で）、また、政策や制度が変化する中で検討が必要な社会の課題と考えています。

社会での活動について、現在、奄美市の地域福祉計画の推進、さつま町の行政改革の推進、薩摩川内市社会福祉協議会の権利擁護センターの運営にかかわる委員を務めています。地域での活動を通して得られた知見を講義等にフィードバックしていきたいと考えています。

これから学生の皆さんとともに、社会課題の解決につながる活動を行っていきたくと思っています。どうぞ、よろしく願いいたします。

2 おすすめの本を紹介します

担当：淡路・大久保・岡留・種子田・原田・益山・右田・安田・米澤・山下教員

社会福祉学科3年生9名がおすすめの本を紹介します
本との出会いが明日のあなたに“PLUS”の変化をもたらしますように



1. 概要
2. 本との出会い
3. 本の内容
4. こんな人に読んでほしい
5. 読んでほしいポイント
6. さいごに

本の紹介に対して
ひとこと感想

K. Oさんの
おすすめの本

1. 概要

- タイトル：逢う日、花咲く。
- 著者：青海野 灰
- 発行年：2019年
- 発行所：KADOKAWA



2. 本との出会い

本屋でたまたま手にした本で、1ページ開くと記憶転移という言葉が気になり買いました。

3. 本の内容

13歳で心臓移植をした八月朔日が、夢の中で自分が女の子になる夢を見るようになります。この夢はドナー提供者である鈴城の記憶なのだとわかり、鈴城の記憶を見る中で八月朔日は彼女に恋をします。八月朔日と鈴城は、決して出逢うことも、触れ合うことも叶いません。

それでも逢いたい思いがどうなるかがドキドキします。

逢いたいけど？
調べてみようかな

4. こんな人に読んでほしい

友達に！

5. 読んでほしいポイント

臓器移植をした八月朔日が臓器提供者である、鈴城の心臓がもたらす鼓動一つ一つを大切に、無駄な負担を与えないように一日一日を過ごして行く思いがとてもいいなと感じました。

6. さいごに

臓器提供など考えたことがありませんでしたが、免許証を持つようになってから免許証の裏にある臓器提供に関する表記に目が行くようになりました。次の日に何があるかわからない中で、自分の臓器でだれか助かる人がいるんだと考えると、自分に何があった場合どうするのかをしっかりと表記しておくことは大事だなと感じています。

A. Tさんのおすすめの本	<div style="text-align: center;">★ ★</div> <h3>1. 概要</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● タイトル：星のカービィ 天駆ける船と虚言の魔術師。 ● 著 者：高瀬 美恵 ● 発行年：2022年 ● 発行所：KADOKAWA
---------------	---

2. 本との出会い

私はゲームが好きで、よく遊ぶゲームの星のカービィが小説になっているとわかったので、読んでみようと思いました。

3. 本の内容

星のカービィは、もともとはアクションゲームです。ゲームのカービィの目的は、プププランドの平和を守ること、そのためにさまざまな冒険を行います。登場人物は、カービィ、デデデ大王、バンダナワドルディそしてメタナイトです。カービィは、なんでも吸い込み、吸い込んだ敵の能力をコピーして変身をすることができます。今回はゲームを小説にした「天駆ける船と虚言の魔術師」を読みました。この小説では、すでに滅んだハルカンドラ（超古代都市）が生み出した船（ローア）の持ち主で、旅人マホロアに、カービィが助けを求められます。そして失われてしまった船（ローア）のパーツを探す大冒険にでる物語となっています。自分も大冒険をしているようで、ワクワクしながら読むことができます。

4. こんな人に読んでほしい

ゲームが好きな人で、カービィのゲームを知っている人！


5. 読んでほしいポイント

小説では、カービィとボスとの戦いが描かれていますが、ゲームだとただの殴り合いのようだったところが、小説だと、その人の感情や思い、性格が伝わってきます。そして細かい解釈なども記載されていて、「ああ、こんな気持ちなんだなあ」「こんな性格なんだなあ」とあらためて気づくことができました。また自分でも、カービィたちのことを想像したりしました。ゲームをやったことがある人は、これらの感情などにも着目してもらえると、より面白いと思いますし、次回、ゲームを行うときに感情移入して、さらに楽しめるのではないかと思います。

6. さいごに

ほかにもインディーホラーゲーム「OMORI」がゲームからコミカライズされているので、そちらもぜひ読んでみてください。



C.Aさんの おすすめの本	<h3>1. 概要</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● タイトル：木曜日にはココアを。 ● 著 者：青山 美智子 ● 発行年：2017年8月 ● 発行所：宝島社文庫 
------------------	---

2. 本との出会い

4月頃、SNSでこの小説をおすすめしている人の投稿が出てきて、「わたしたちは、知らないうちに誰かを救っている」という本のキーワードに惹かれ読んでみたいと思いました。

3. 本の内容

小さな喫茶店「マール・カフェ」の1杯のココアから始まる12編による短編集です。カフェの「マスター」と木曜日にカフェを訪れる「彼女」が織りなす物語で、彼女はいつも同じ席に座り、決まって「ホットココア」をオーダーします。2人は密かにお互いを「ココアさん」と名付けます。そんな2人はそれぞれの言動に「うれしくなったり」「わくわくしたり」「心配したり」と心を動かされます。彼女が辛くて悲しい時、マスターのたった一言に救われて、その言動は「きらきら」と輝いてみえます。またある時彼女は、幼稚園児であろう男の子に「ホットココアでございます。お熱いので、お気を付けください」と優しく微笑むマスターに、人に対する敬意とまごころを感じます。「わたしたちは、知らないうちに誰かを救っている」というキーワードのとおり、何気なくしたことが誰かにとっては救いとなったり、落ち着きや安らぎを与えていたり、そんな些細な出来事が繋がっていて、前向きになることができるお話です。

4. こんな人に読んでほしい

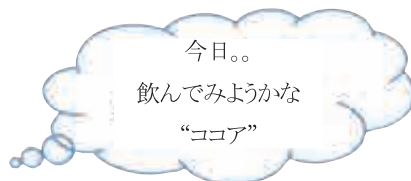
短編集が好きな人やちょっと落ち込んでいたりする人はぜひ手に取ってみてください。

5. 読んでほしいポイント

全て優しいお話なので心を安らかにしながら読むことができます。難しい表現ではないため読んでいて情景が想像しやすく、より小説に入り込みながら読むことができよいいと思います。また12編の連作短編集なため、集中力を途切れさせることなくお話に集中できるところが小説を読むのに苦手意識があった私にもぴったりでした。

6. さいごに

読み終わってみると小説を好きになっていて、もっとたくさん本を手に取り読んでみたいと本自体に興味が増えました。



K. Hさんの
おすすめの本

1. 概要

- タイトル：ジュニア空想科学読本（シリーズ30）
- 著 者：柳田 理科雄
- 発行年：2025年
- 発行所：KADOKAWA



2. 本との出会い

私がこのシリーズに出会ったのは小学生のときです。小学校の図書館で、当時新しく入荷した本の中にありました。理科が好きだった当時の私は、タイトルを見て興味を持ち、本を開いて目次を見ると、とても面白そうだと感じました。

3. 本の内容

この本の内容は、「漫画、アニメ、ゲーム、童話などに登場する現象を、科学的に検証する」というものです。具体例を最新の第30巻から挙げると、「【推しの子】」の主人公2人が転生して双子として生まれる確率の調査や、「はらぺこあおむし」のあおむしがどれだけの量を食べたのかの調査…などです。驚異的な身体能力を持つキャラについての調査も多くあります。検証の内容は、前述の「【推しの子】」の場合、年間の子供の出生数や双子が生まれる確率などを調べ、それが特定の2人で、同時に起こる確率がどれほどかを計算していました。

4. こんな人に読んでほしい

科学が好きな人や漫画やアニメなどの創作物が好きな人にお勧めです。

5. 読んでほしいポイント

中にはこのように考える人もいると思います。「空想の創作物に科学を当てはめると夢が壊れるのでは？」と。しかし私はむしろ、空想の創作物を更に魅力的に感じられると思いました。科学的な検証の結果は、どれも驚きに満ちています。とてつもない力や、天文学的確率が導かれ、ときには笑ってしまうこともあります。その結果、知っているキャラに対して一層「凄い」「カッコいい」という感想を抱いたり、どれほど奇跡的な出会いをしたのか、と感動したりします。また、科学の知識を知っていくのも楽しいです。「もの凄く圧縮された空気は光を反射する」「光には非常に微弱ながら物を押す力がある」などを知ったときは驚きました。

6. さいごに

繰り返しになりますが、私はこの本を読んで、空想の創作物を更に楽しむことができます。ぜひ、好きな作品が取り扱われている巻を見つけて、読んでみてください。



A. Yさんの
おすすめの本

1. 概要

- タイトル：ナオミとカナコ
- 著者：奥田 英朗
- 発行年：2014年
- 発行所：幻冬舎



2. 本との出会い

2016年放送のテレビドラマを先に観て、原作が気になって手に取りました。

3. 本の内容

百貨店の外商部に勤める直美と専業主婦の加奈子は、大学時代からの親友同士。ある日直美は加奈子が夫の達郎から激しいDVを受けている事を知ります。直美はとても心を痛め、すぐに加奈子に離婚を勧めるも加奈子には離婚できない事情があり・・・。

驚くべき事を口にしたのは直美の方でした。

「いっそ、二人で殺そうか。あんたの旦那。」

4. こんな人に読んでほしい

主人公が犯罪者側の物語に興味がある人や、スリルを楽しみたい人におすすめです。

5. 読んでほしいポイント

この作品の見どころは罪を犯す側の視点が細かく描かれていることです。

ある日直美は仕事で訪れた会社で達郎にそっくりな中国人男性と出会い、「この人を使えば達郎が活着ているように見せかけられるのでは」と考えます。中国人男性との出会いをきっかけに直美と加奈子の計画が動き出すのです。また、物語が進んでいく中で達郎の妹、陽子が登場し、興信所を使い執拗に2人を追い詰めていく展開が描かれます。そして直美と加奈子は自分たちの計画が穴だらけだったことに気づくのです。

直美と加奈子、そして陽子の視点を意識しつつ、時々は全体を俯瞰しながら読んでみてください。

6. さいごに

本当は達郎の妹、陽子の方が正義であるはずなのに、物語が直美と加奈子の視点で進むことで正しいことをしている陽子が悪役に見えてしまうのが印象的でした。主人公たちは悪いことをしているはずなのについ応援したくなってしまふ、そんな物語です。



K. Mさんの
おすすめの本

1. 概要

- タイトル：Nのために
- 著 者：湊 かなえ
- 発行年：2010年
- 発行所：東京創元社



2. 本との出会い

今年の5月、大学の図書館で本を探している時に会いました。

3. 本の内容

物語は、超高層マンション「スカイローズガーデン」で、ある夫婦の変死体が発見される
ところからはじまります。死体で見つかった夫婦は、M商事営業部プロジェクト課長とその
妻でM商事専務の娘です。この事件の現場には20代の男女4名が居合わせていました。居
合わせていた4名を紹介すると、まずK大学文学部英文科の4年の学生、次にT大学経済学
部国際経済学科の4年の学生、次にM商事営業部プロジェクト課勤務の会社員、次にM大学
法学部法律学科4年の学生です。警察は現場に居合わせた4名から詳しく事情を聞くこと
にしました。4名はそれぞれの立場や視点で証言をしていきます。

主要人物すべてに「N」のイニシャルがついていることがキーになっており、登場人物そ
れぞれが大切な人のために行動した結果、起きた事件の物語です。

4. こんな人に読んでほしい

ミステリー小説、考察することが好きな人に読んでほしいです。

5. 読んでほしいポイント

事件の背後にあるそれぞれの人物の動機や想いが描かれており、物語の構造が複雑に組み
立てられているため、考察しながら読んでほしいです。

6. さいごに

私たちは、年代や環境などそれぞれ異なる人生を歩んできているので、同じ出来事に会
っても、異なる捉え方をすることがあります。私たちは同じものをみているようで、感じ方
や認知は異なり、それによっていろいろな解釈をします。もし困難に感じることに遭遇し
たり、乗り越えられないと思う壁が自分の前に立ちほだかったら、視点を変えて物事をみて
みると、その困難や壁の向こう側に新たな可能性が広がってみえてくるかもしれません。同じ
物語でも、人の数だけ見方が変わってくることを強く実感させられた作品でした。



M. Yさんの
おすすめの本

1. 概要

- タイトル：魔女の旅々
- 著 者：白石 定規
- 発行年：2016年 4月30日初版第一刷発行
- 発行所：SBクリエイティブ



2. 本との出会い

魔女の旅々にはアニメで出会いました。放映されていた時期は高校生のときなので、だいたい2020年です。それを見ていた時初めて出会ったような感情の高まりが生まれて、視聴を終えたときには早く次を見たいと感じていました。

アニメ化されなかった書籍限定の内容があるとネット掲示板で知り、高校時代にアルバイトをして書籍版と出会いました。今でも読み返す愛読書であり、何度読んでも飽きない本です。

3. 本の内容

主人公は若くして魔女の才能を持ち、真面目な性格で自身の灰髪に自信を持つイレイナです。

本の中でイレイナは言います。「構わないでください。私、旅人なものですから。先を急がなければならないのです。」

そんなイレイナが気ままに旅を続ける物語で、訪れる国から依頼をされて、問題を魔法で解決したり、修業時代の先生との昔話があったり、様々なお話が収録されています。

4. こんな人に読んでほしい

中世ファンタジーな世界観が好きな人・魔法が出てくる物語が好きな人におすすめです。

5. 読んでほしいポイント

魔女の旅々は、魔法で解決する快活なお話や路銀を稼ぐためにずるい商売をして制裁されるお話しなどがあり、頭を空っぽにして楽しめます。

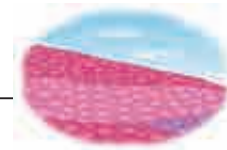
明るい内容が多く現実逃避したいなと思ったときに読む本としては完成度が非常に高いです。

6. さいごに

面白く読み進めやすいお話が多いです。時々苦味の強いお話がありますが、それも含めて私はよい本であると考えています。興味が沸いた人は書店でぜひ買って読んで欲しいです。



<p>K. Mさんの おすすめの本</p>	<p>1. 概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ● タイトル：あの花が咲く丘で君とまた出会えたら ● 著 者：汐見 夏衛 ● 発行年：2016年7月 ● 発行所：スタート出版
---------------------------	--



2. 本との出会い

大学1年の時この本を基にした映画が上映されました。その映画を友達と見に行った後にこの映画の原作は本ということを知り、この本を買い出会いました。

3. 本の内容

現代の女子中学生の百合が母親とのけんかをきっかけに家を飛び出し、裏山の防空壕で一晩過ごします。

目が覚めると、そこは70年前の戦時中の日本でした。百合は、そこで出会った彰という男の人のことをだんだん好きになっていきます。百合は彰が特攻隊員であるため、しばらくして戦地へと飛びたつということと日本がこの戦争に負けるということを知っているため、彰には戦争に行つてほしくないと言えます。そしてついに出撃の日、百合は彰の出撃を泣きながら見守るのです。百合は負けるとわかっていて出撃することに納得がいかず、裏山の防空壕に駆け込み一晩を過ごしました。

そうして目を覚ますと、そこは現代に戻っていたのです。

社会科見学で特攻資料館を訪れた百合は隊員たちの遺言書を見つけます。そこにはタイムスリップした時に出会った隊員たちの名前があったのです。そしてそこには彰の遺言書もあり百合への本心が綴られていました。

4. こんな人に読んでほしい

感動したい人！ぜひ！

5. 読んでほしいポイント

百合や彰、ほかの隊員の葛藤が書かれていたり、百合の切ない感情が描かれています。これらの感情に着目しながら読んでほしいです。

6. さいごに

時代は関係なく、命の尊さを改めて考えることができました。



M. Oさんの
おすすめの本

1. 概要

- タイトル：同士少女よ、敵を撃て
- 著者：逢坂 冬馬
- 発行年：2021年11月17日
- 発行所：早川書房



2. 本との出会い

高校三年生の時、受験が終わり、時間ができたことがきっかけで読書をはじめ、学校の図書室で見つけた本です。

3. 本の内容

物語では(旧)ソ連とドイツの戦争(いわゆる独ソ戦)を描いています。主人公はソ連の片田舎の村に住む少女セラフィマ。ある日ドイツ軍が村を襲いセラフィマの家族、村の人々は惨殺されます。生き残ったセラフィマは赤軍(ソ連軍)の女性狙撃兵部隊に入隊し、復讐を果たすために戦うというようなあらすじです。モデルとなった女性狙撃部隊はソ連軍に実際にあったもので、ソ連には女性の狙撃手が数多くいたそうです。

4. こんな人に読んでほしい

女性、アクションストーリーが好きな人！

5. 読んでほしいポイント

戦いの表現や、セラフィマの心の動き方が
丁寧に書かれていて、とても読みやすい作品です。



6. さいごに

この作品はページ数が多くて手に取りづらいと感じてしまうかもしれませんが、言葉のチョイスや情景の表現が丁寧で頭で場面を想像でき、読みやすい作品です。また、戦う女性が登場するこの作品は今までにない新鮮さもありました。ぜひ読んでみてください。

読書は、私たちの創造力や共感力を向上させ、新たな世界や新しい視点でものを考えることを教えてくれます。

また近年では、本を読むことでストレス軽減や健康寿命を延伸する効果がある！などの研究も報告されています。

「ゆうかり委員おすすめの本」、「あなたとの出会いを待っている本」を探しに

図書館に足を運んでみてはいかがでしょうか

おしまい 

出典

青海野灰 (2019) 『逢う日、花咲く。』 KADOKAWA、高瀬美恵 (2022) 『星のカービィ天駆ける船と虚言の魔術師』 KADOKAWA、青山美智子 (2017) 『木曜日にはココアを』 宝島社文庫、柳田理科雄 (2025) 『ジュニア空想科学読本 (シリーズ 30)』 KADOKAWA、奥田英朗 (2014) 『ナオミとカナコ』 幻冬舎、湊かなえ (2010) 『Nのために』 東京創元社、白石定規 (2016) 『魔女の旅々』 SBクリエイティブ、汐見夏衛 (2016) 『あの花が咲く丘で君とまた出会えたら』 スターツ出版、逢坂冬馬 (2021) 『同士少女よ、敵を撃て』 早川書房

3-1 一日大学生体験

一日大学生体験担当 中井 康貴

社会福祉学科では、11月21日に鹿児島高校の2年生14名を招き、高大連携事業「一日大学生体験」を実施しました。社会福祉を知るだけでなく、「体験して理解する」ことを大切に、1日限定の特別プログラムです。

まずは茶屋道教授（社会福祉学科長）によるミニ講義からスタート。社会福祉の視点から、日本や鹿児島が直面する課題をクイズ形式で紹介すると、生徒たちは笑顔で答えながら、社会の未来について理解を深めていきました。

続く演習体験では、大学生と一緒に災害対応カードゲーム「クロスロード」、子どもの発達段階を考えるワーク、人の価値観を理解するゲーム、特別な支援を必要とする子どもと家庭への支援紹介など、多彩なゼミ活動に参加。実際の大学の授業に近い雰囲気、大学生と活発に交流しながら社会福祉の学びを深めて、実際に体験することで感じたこと、学んだことが多くあったようでした。

本学科では今後も、地域の高校と協力し、互いに学び合う交流活動を広げていきます。また、社会福祉学科では本年度より社会福祉学科公式のInstagramの運用を開始しました。社会福祉学科の特色ある活動や日常を発信していますので、ぜひこの機会にフォローをお願い致します。

《参加した高校生からの感想を一部ご紹介します》

- ・ 楽しく大学やこの学科のことを知れて、とても良い機会になった。
- ・ 最初はどんな学科だろうと言う感じだったが、全体を通して社会福祉も深く面白かったです。
- ・ 社会福祉にあまり興味はなかったけど、意外と面白いと思った進路の選択肢に入れてみようと思いました。もっと社会福祉について知りたいです。
- ・ 大学の雰囲気とか授業の様子を実際に体験できてよかった。
- ・ 社会福祉学科の雰囲気や活動内容を肌で感じながら学ぶことができました。 等



3-2 新入生ゼミナールの取り組み紹介

新入生ゼミナール担当 永富 大輔

社会福祉学科では、1年生を対象とした「新入生ゼミナール」という科目があります。この科目では、初めて大学生活を送る1年生が、学科の友達をつくったり、大学生活や学科のことについて学んだり、メールの送り方やレポートの書き方を身につけたり、プレゼンテーションに挑戦したりします。また、担任教員に関するクイズ大会も実施され、学生にとって担任教員をより身近に感じられる機会となっており、毎年とても好評です。

このゼミナールで欠かせない存在となっているのが、2年生の先輩学生であるSA(Student Assistant)です。SAは1年生の身近な先輩として、大学生活に関するさまざまな相談に乗ってくれます。担任教員とはまた違った、学生ならではの視点で、学期末試験、アルバイト、サークル、2年次の授業や生活などについてアドバイスしてくれます。さらに、SA主催のレクリエーション大会も行われ、友達づくりのきっかけにもなっています。1年生にとって、SAは親しみやすく、頼りになる存在として大きな役割を果たしています。

そのほか、クラスによっては担任の先生が独自の工夫をこらした取り組みを行っています。たとえば、学外でのフィールドワーク、複数クラス合同での風船バレー大会、研究室訪問によるインタビューとプレゼンテーション発表など、多彩な活動が展開されています。

新入生ゼミナールを通じて、1年生が不安や緊張を抱えることなく大学生活をスタートでき、自然と友達ができる環境づくりを目指しています。今後も、学生が大学生活を楽しく送り、さまざまな学びを得られるような取り組みを続けていきます。



プレゼンテーション発表の様子



レクリエーションの様子

3-3 2025年社会福祉士国家試験受験対策 —今しかできない大学生活のあれもこれも、全力で！—

2025年度 社会福祉士国家試験受験対策委員会 大山・小松尾・山下

社会福祉士国家試験受験対策委員会では、社会福祉士受験対策として、講座および模擬試験を実施しています。これらの目的は、「社会福祉士国家試験に向けて、受験のための学習方法や教材の提供、模擬試験を通じた実践的学習の環境を設定する」ことです。

2025年度の講座は、社会福祉士受験資格取得見込みの社会福祉学科の学生(4年生・3年生)が受講しています。受講生は、個々のタイミングで、いつでも受講できるWEBによる受験科目の解説動画やWEBテストに取り組むなど、自己学習を行っています。また、教員による自己学習用の教材の活用方法、受験勉強の方法、受験科目のポイント解説などを内容とする6回の講座も受講し、さらに自宅実施の模擬試験を受験しています。

受講生は、昨年度の受験生から「国試を受ける仲間たちとお互いに支え合うことが大切だよ」「勉強に疲れた時は、息抜きしたり、しっかり寝てもいいんだよ、それも大切」などのメッセージを受け取り、「仲間とともに」多くの経験と学びを得ています。

また講座外の模擬試験も実施しています。具体的には、日本ソーシャルワーク教育学校連盟と中央法規が実施する全国模擬試験を学内で実施しており、講座の模擬試験と併せると、10月～12月にかけては、月1回の頻度で模擬試験を受験できます。

なお、本学科では、4年生の通年科目である「社会福祉学特論」において、教員(非常勤含む)が受験科目19科目を網羅しており、過去問を通して力を伸ばす授業を実施しています。この「社会福祉学特論」と本講座・模擬試験は相補の関係となり、学生の受験勉強の促進を目指しています。

2025年度の社会福祉士国家試験は、カリキュラム見直しに伴う2回目の試験となります。受験生は、試験の変化に合わせた対策をとることが必要となるなど、不安は大きいと思います。しかしその中で、4年間蓄えてきた力を十分に発揮して、合格を目指し、また自分の可能性や目標を模索し、大きく成長して頂きたいと考えています。



3-4 演習論文報告会

演習論文委員 松元 泰英

社会福祉学科の演習論文報告会（ポスター形式）を、12月9日（火）から13日（土）まで、5号館1階学生ホールで開催しました。

今年度は、4つのゼミから計5本の報告があり、これらに対する自由記述形式のアンケートが13件寄せられました。閲覧者には、設置した指押し式カウンターを自分で押してもらい、その数を閲覧数として集計しました。最終的に、36名の閲覧が確認されています。

今年度の反省点として、ポスター形式の発表において「文字が小さくて見えにくい」という意見が寄せられており、来年度の改善点として検討していく予定です。

閲覧していただいた学生の皆さんや先生方、また、報告やアンケートにご協力くださった学生の皆さんをはじめ、関係するすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

報告者とそのテーマは以下のとおりになります。

	報告者	テーマ	所属ゼミ
1	長倉 一颯	社会福祉的視点を取り入れた 若年層の献血促進について	大山ゼミ
2	折尾 文香	なぜ人は占いを信じるのか	古賀ゼミ
3	川原 郁敏	光療法の新たな応用可能性 ～睡眠障害および起立性調節障害への効果～	林ゼミ
4	徳重 玲音	各都道府県の精神保健福祉センター における自殺対策について	林ゼミ
5	西野 大幾	トレーディングカードゲーム（TCG）が子どもの 教育に与える影響について	松元ゼミ

学生の皆さんの中には、2月上旬に社会福祉士の国家試験を控えているのに、なぜ演習論文を書かなければならないのか疑問に思っている人もいるかもしれません。しかし、演習論文に取り組むことは、次のように多くの力を育成するなどの大きな意味があります。

- 1 思考が整理される ⇒ 情報整理力、問題の明確化、根拠に基づいた説明力の向上など
 - 2 伝える力・まとめる力が定着する ⇒ 論理的な文章構成、伝える力の育成など
 - 3 気持ちや考えが整理される ⇒ 自分の価値観の明確化、自分自身の気づきの促進など
 - 4 内容を自分の言葉で語れるようになる ⇒ 自己表現への昇華、説明する力の向上など
 - 5 表現力が向上し、今後の書類作成などに強くなる ⇒ 文章構成力・記述力の育成など
- ざっと挙げただけでも、演習論文作成を通してこれだけ多くの力が身に付くことがわかります。皆さんが「なぜ今、論文を書くのか」と疑問に思っているこの学習は、実は気づかないうちに皆さん自身を大きく成長させているのです。

演習論文報告会の様子



4-1 ソーシャルワーク実習 -学生の感想と教員のコメント-

社会福祉学科では、社会福祉士の資格取得に必要なソーシャルワーク実習を2年時の春期休暇と3年時の夏期休暇に実施しています。今年度の実習について、分野ごとに学生の皆さんから感想をいただきました。

今年度の夏のソーシャルワーク実習Ⅱにおいては、災害が起きた地域もありました。被災された施設等もありましたが、引き続き実習を受け入れていただいたことに感謝いたします。

4-1-1 【高齢者分野】 川崎竜太先生担当：原田 昂志郎

介護老人福祉施設ことぶき園でソーシャルワーク実習をさせていただきました。実習中は、毎日、入所者の居室を訪れて、入所者の方々の生活場面で時間を過ごすことが多かったです。入所者の方々の体調等に注意しながらコミュニケーションをとる中で、利用者理解に努めることができました。利用者に関わる中で、難聴の方や発語がない（少ない）方とのコミュニケーションに苦労したこともありましたが、入所者と職員のコミュニケーションを観察したり、身振りを交えたりして、コミュニケーションに努めました。また、利用者のことを知るため、職員に利用者の普段の様子について確認し、利用者台帳も確認して理解を深めました。

事例検討では、施設に入所している方を対象に実施しました。対象者の方のADLは、全介助が必要な状態でした。支援計画作成の際は、利用者の方から聴き取った内容をもとに支援計画を作成しました。作成後、職員からアドバイスをいただき、支援検討の際は施設内だけでなく、インフォーマルな資源を知り、それも含めることが大切だと感じました。

実習中は、利用者のケアをすることはなかったですが、支援する側が利用者について理解すること、コミュニケーションをとることが利用者のリハビリや心の支えになることを学び、コミュニケーションの重要性について改めて認識することができました。実習を通して、幅広い知識や制度についての理解、相手に寄り添う気持ちが大切だと思いました。実際の現場で利用者とかかわる中で、施設で生活されている方が求めていることや必要なことを考えることができる大変貴重な経験ができました。

4-1-2 【障害者・児分野】 小松尾京子先生担当：谷口 拓磨 「障害者就業・生活支援センターでの実習を終えて」

私は実習で障害者分野のあいらいさ障害者就業・生活支援センターに実習へ行った。障害のある方の「仕事」と「生活」の両面を一体的にサポートし、雇用の促進と安定を図るための身近な地域の相談・支援機関である。

今回の実習では、個別支援計画の作成とそのためのアセスメント、定着支援への同行、面談への同席を中心に様々なことを経験した。とくに印象に残っているのは、脳性麻痺のあるAさんのモニタリングに同行したときである。モニタリングの中で、以前電車で支援者とお出かけをしたときに、電車とホームとの隙間が思っていたよりも広く、乗るには支援者の補助がないと難しいという話だった。今後、電車をつかい1人で買い物にいきたいと考えていたAさんだったが、それは難しいかもという結論に至りそうであった。そのときに、相

談員から自分に「谷口さんは電車に乗るときにどうしているの」と話を振られたので、「自分が電車に乗るときは、乗る駅の駅員さんにスロープを準備してほしいことと、降りる駅を伝えてその駅でも準備を頼みたいことを伝えている。」と話した。Aさんと相談員さんはそれを聞いてその方法なら一人でも電車に乗れるかもと前向きな雰囲気でもニタリングを終えた。「自分はこの方法で電車に乗っている」ということを自分から発信できれば一番よかったが、それでも自分の経験したことや知っていることから、対象者の課題解決に少し近づいたことは、ソーシャルワーカーとしてのやりがいを実感することができた気がした。このような経験させていただいたAさんや相談員さんに感謝したい。

このこと以外にも様々な場面で多くの学びを得ることができた。今回の実習で学んだ対人援助スキルを、資格試験や現場で働くときに活かしたい。

4 - 1 - 3 【子ども分野】 有村玲香先生担当：小野 奏人

私は、児童養護施設愛の聖母園で実習を行いました。

本実習では、職員との連携・協働を意識し、子どもの性別や発達段階に応じた個別的なコミュニケーションを実践し、事前に共有された子ども一人ひとりの特徴や興味関心を踏まえ、会話の導入や名前を呼ぶ関わりを通してラポール形成に努めました。高学年の子どもとの関わりも多く、共通の話題を手がかりに話しやすい雰囲気づくりを行い、関係を深めることができました。

一方、前期実習では幼児の寝かしつけ場面で、異性実習生としての距離感と子どもの安心の両立について倫理的ジレンマを経験しました。この出来事を振り返り、指導者や実習生とのスーパービジョンを通して支援のあり方を再検討し、後期実習では第三者から見ても適切な関わりを意識して実践に臨みました。

また、公文定例会では座席配置や進行を工夫し、参加者が意見を出しやすい環境を整えたことで、環境調整が対人援助技術の一つであることを学びました。さらに、A児の支援ではストレングスに着目した多層的アセスメントを行い、約束を守ることの重要性和支援者の責任を実感しました。本実習を通して、地域理解、チーム連携、倫理に基づいた関係構築の重要性を学ぶことができました。

最後に、実習を受け入れて下さった施設長、ホームの子どもたち、職員の皆様、そして実習指導者に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

4 - 1 - 4 【医療分野】 山下利恵子先生担当：中間 研心

私は、今林整形外科病院で実習を行わせていただきました。実習を振り返って、病院でのソーシャルワーカーの業務や役割を学び、倫理や価値について考えることができた点が大きな成果であったと考えます。医療ソーシャルワーカーは、入退院支援に際して、どのようなアプローチをしていくか、その専門性が求められます。私は事例検討を通して人生の最終段階における支援についても学習させていただきました。生命の保護と生活の質、どちらを優先して支援をするべきか、その人らしい今後の生き方の正解は何であるのか、果たして正解はあるのかなど、とても考えさせられました。医療ソーシャルワーカーは、病院の機能を把握し患者の今後の人生を左右する大きな分岐点に立ち合っていることを意識し、患者の意向をくみ取り、様々な選択肢を提示し、笑顔で悔いが残らないような人生を届けることが求められます。そしてそれが社会福祉士の倫理や価値ではないかと考えます。私は、専門性を十

分に発揮し患者に常に寄り添い、また患者だけではなく多職種からも信頼されるソーシャルワーカーになりたいと思いました。そして入退院支援はソーシャルワーカー1人ではできないことも実感しました。多職種連携が必須となるため、周りとの交友関係には注意をして、患者にとって最適な支援を届けていきたいです。これからも福祉について学習し、また、医療の基礎的なことや整形外科の分野も含めて学んでいきたいと考えます。

実習中は、地域連携室の方々がとても優しく接して下さったことで、実習の時間がとても楽しく有意義な時間になりました。今までの人生の中で見たことのない景色を見たり感じたことのない気持ちになったり、たくさんの経験をさせていただきました。最後に、お忙しい中、私の実習のために時間を作って下さった実習指導者をはじめとする関係の皆様へ感謝申し上げます。

4 - 1 - 5 【福祉事務所】 大山朝子先生担当：軍神 隆士郎

私は鹿児島市福祉事務所で実習を行った。実際に実習させていただいたのは、保護第一課、障害福祉課、保育幼稚園課（原良保育園）である。保護第一課では、受給世帯への同行訪問が実習の中心であった。同行させていただいたケースワーカーの方々は、利用者との関わり方やコミュニケーションの取り方を工夫し、信頼関係を構築されており、様々なアプローチの仕方を学ぶことができた。また、初回面談や病院や施設に入っておられる方への保護費の受け渡し、就労支援に繋げるためのハローワークの方を含めた面談など様々な体験をさせていただいた。支援していくうえで、救護施設やグループホーム、病院などのいろいろな組織、職種との連携がとられており、「多職種連携」の大切さを改めて感じた。

障害福祉課では、ゆうあい館、ふれあい館、障害者基幹相談支援センター、児童発達支援事業所など様々な場所を訪問させていただいた。ゆうあい館では卓球バレーを通し、障害者の方々と交流させていただいた。障害者基幹相談支援センターでは、「合理的配慮」について、他の人たちと変わりなく生活できるようにするための支援を行うことであるという説明を受け、その内容を具体的に理解することができた。

保育幼稚園課の管轄である原良保育園では、1歳児から5歳児までのクラスで保育業務に関わらせていただいた。保育園に通っている子どもたちは、年長になるにつれ行動範囲や興味が広がり、様々なことに自ら挑戦し、保育士の先生方や友達に関わろうとしていた。一方で保育士の先生方は、子どもたちがいろいろな事を体験できるように見守りをされており、安全面への配慮も非常に大切にされていた。以上のように福祉事務所での実習内容はソーシャルワークの「ミクロ・メゾ・マクロ」領域の視点が盛り込まれており、私にとって大変有意義な実習となった。今後は実習をとおして得た学びを、学生生活に可能な限り活かしていきたいと思う。

4 - 1 - 6 【社会福祉協議会】 藤島法仁先生担当：堀之内 悠海 「ソーシャルワーク実習Ⅱで学んだこと」

私はソーシャルワーク実習Ⅱにおいて、薩摩川内市社会福祉協議会で25日間の実習を行いました。実習では、社会福祉協議会が担う役割について説明を受け、地域包括支援センター利用者への訪問、日常生活自立支援事業利用者への訪問、高齢者サロンや子育てサロンへの参加、児童発達支援センターでの療育支援など多様な現場を経験させていただきました。

その中で特に印象に残っていることは、日常生活自立支援事業について説明を受ける中で、

支援者として、本人にとってマイナス面も大きいと思われることでも、本人の自己決定を大切にすることである「失敗も本人の権利」ということを学んだことです。これまでは、支援者は本人が誤った選択をしないように道を整えることが重要であると考えていました。しかし、社会的には失敗と思われることでも本人が決め、その事象に向き合っていくこと、支援者はその向き合う本人に寄り添うことが、本人の権利を守る支援につながるのだと気づくことができました。

一方で、本人の希望を尊重したい気持ちと、安全面や生活の安定を考慮する必要があり、支援の場面では倫理的ジレンマが生じることがあると考えました。日常生活自立支援事業は契約制度により適切なサービス利用、それに伴う利用料の支払い、そのための日常生活の金銭管理を行っており、本人が本人らしく暮らすために行われている事業です。本人の意思を尊重しつつ、よりよい生活につながる選択を共に考える姿勢が重要であることを実感しました。



上の写真は発表者の皆さんです。



4-2 精神保健福祉士養成課程の取り組み

林 岳宏・茶屋道 拓哉

はじめに

本課程では、精神保健福祉援助実習とその関連科目である精神保健福祉援助実習指導Ⅰ～Ⅲ、精神保健福祉援助演習を連動させて、より深い気付きと学びが得られるような工夫を行っています。令和7年度も、現場の指導者・関係者の皆様の多大なご協力もあって、現場での実習を行うことができました。ここでは、令和7年度の実習（実習前教育～実習報告会）や課程として取り組んでいる事についてご紹介させていただきます。

1. 実習の流れ

1) 見学実習

本格的な実習に入る前（5～7月）に見学実習として、①鹿児島県精神保健福祉センター、②鹿児島市保健所（鹿児島市保健支援課）、③鹿児島市精神保健福祉交流センター（はーとぱーく）、④鹿児島県立始良病院、⑤谷山病院（関係事業所含む）、⑥松下病院での見学実習を行います。それぞれの見学先に行く前には、事前学習として各機関の持つ役割や特徴、根拠法について学びを深め、当日を迎えます。例年、見学を通じて学生自身の主体的な学びの姿勢が育まれていくように感じています。

2) 学内での事前学習

各実習先への事前訪問、公的機関や病院への見学実習と併行して、学内での講義や演習により、本実習への準備を重ねていきます。坂之上キャンパスにある実習室では、グループ学習やロールプレイを行って行きました。我々、現場経験のある教員の指導のもと、SST(Social Skills Training)も実施しました。講義で学習してきた知識をもとに、支援に必要な技術を演習で身につけて行きました。

3) 事業所実習

6月中旬から、いよいよ本格的な実習が始まります。まずは、障害福祉サービス事業所（相談支援事業所・就労継続支援B型事業所、地域活動支援センターなど）での実習（8日間：64時間）を行います。実習先では地域で精神障害をかかえる方々が、どのように生活を維持し、どのような思いを持っているのについて、実際にかかわりながら自らのスキルを試し、関係する諸制度（障害者総合支援法など）との関連について学んでいきます。今年は、実施時期を1週間前倒して実施しました。

4) 病院実習

前期試験が終わると、いよいよ8月上旬からは精神科病院での実習（20日間：160時間）です。様々な入院患者や外来通院患者と出会い、語らい、そうした方々の思いや環境から多くの気づきを得、実習指導者の方々と振り返りを行う作業を繰り返します。そのなかで、これまで学んできたソーシャルワーカーとしての価値や倫理、精神保健福祉法の運用や各種社会保障制度、社会資源が実際にどのように活用されているのかを体験します。天候悪化の影響があり、実習スケジュールに多少の影響がありましたが、実習後半にはケース検討を行いながら精神障害や地域移行について、さらに具体的な学びと専門職としての自己洞察を深めて行きました。

2. 実習報告会

後期に入ると、各学生が持ち寄った実習の経験やケース検討について、全体での振り返りを繰り返して行きます。その振り返りの中で本課程がこだわって教育していることは「ソーシャルワーカーである精神保健福祉士らしい振り返り」です。実習経験が率直な感想や体験報告の枠を超え、大学での学びやソーシャルワーク理論、各種法制度や社会情勢との関係に

ふることで、個別的なかかわりのミクロの先にある、メゾ・マクロといった鳥瞰的視座を獲得してもらうことを目的としています。

11月8日(土)に開催された実習報告会では大勢の実習指導者や3年生を前に、各学生が行った振り返りをプレゼンテーションしました。オリジナリティのある各実習生の報告がなされます。また、それに対する指導者からのコメントや教員の補足質問に学生が真摯に応えていく姿は「ソーシャルワーカーとしてのスタートラインに立つ準備が整ったこと」を感じさせてくれました。年々、発表の質(スライドのクオリティを含め)が高まっていると、実習指導者の皆様にご評価いただいています。それについては、学生が互いに経験を共有し力しながら準備できていることが、大きく影響していると考えています。なお、報告会の後には、実習指導者の皆様に対し、次年度導入予定の実習支援システムの説明会を開催させていただきました。まだ準備段階ではありますが、より効果的かつ効率的な実習のあり方を、今後も検討してまいります。

3. 鹿児島市保健所(保健支援課)との協働による自殺対策普及啓発活動

本課程では、学生活動を中心に、令和4年度より鹿児島市保健所(保健支援課)との協働で自殺対策普及啓発活動を行っています。今年度も、ポスターデザイン案作りの段階から学生たちが関与しました。学生が直接、鹿児島市保健支援課の方と打ち合わせを重ねながら工夫を凝らし、作成しています。完成したポスターは、本学の大学祭にでも鹿児島市保健支援課の皆様により配布されました。

おわりに

本学の精神保健福祉士養成課程は、多くの皆様のご協力で運営されております。非常勤講師の先生方(その多くは本学の卒業生)、実習指導をはじめとした実習先の関係職種・当事者の皆様、本学教職員の皆様にあらためて感謝申し上げたいと思います。多くの学生が国家資格を取得していくことができるよう、これからも丁寧に学生を教育していきたいと思っています。鹿児島県内外の精神保健福祉の発展のために貢献できる人材を育成してまいりたいと思いますので、引き続き、本課程へのご協力とご指導をどうぞよろしくお願いいたします。







4-3 介護福祉士課程

岩崎 房子

はじめに

社会福祉学科で最も新しく設置された介護福祉士課程も、今年度で24年目となりました。この間、卒業生は300名を超え、鹿児島県内を中心に介護・福祉現場、行政、企業で活躍しています。本学の介護福祉士課程は、県内で唯一の4年制大学の養成課程です。本課程は、介護福祉士と社会福祉士のダブル資格取得を目指している点に特徴があります。つまり、「ソーシャルワークのできる介護福祉士」、「介護のできるソーシャルワーカー」を養成しています。これからの介護・福祉を牽引していくリーダー養成を目指しています。

現在、1～4年生まで45名の学生が在籍し、勉強、サークル、アルバイト、ボランティアなど充実した学生生活を送っています。アットホームな学習環境のなかで、切磋琢磨しながら学生生活を楽しんでいます！

以下は、介護福祉士課程の紹介です。

＜介護福祉士課程の学生の2024年度国家試験合格率は?!＞△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

★介護福祉士国家試験合格率 100% (全国合格率78.3%)
 ★社会福祉士国家試験合格率 85.0% (全国合格率:56.3%、全国現役合格率:75.2%)

＜介護福祉士課程の学生は実習が多くて大変?!＞△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼



	実習時期	介護実習	ソーシャルワーク実習
1年次	夏休み(8～9月)		
	春休み(2～3月)	○(2週間)	
2年次	夏休み(8～9月)	○(4週間)	
	春休み(2～3月)		○(1週間)
3年次	夏休み(8～9月)		○(4週間)
	春休み(2～3月)		
4年次	夏休み(8～9月)	○(5週間)	
	春休み(2～3月)		

社会福祉学科の中では、一番実習が多いです！2つの国家資格を目指すのですから、頑張りましょう！カリキュラムはハードですが、3名の教員と実習支援課の職員の方々がしっかりとサポートしていますのでご安心ください。介護実習で展開するアセスメント重視の介護過程（アセスメント→介護計画→実施→評価）で、エビデンスに基づいた思考過程をしっかりと身に付けて、介護診断ができるように指導していきます！

＜卒業生の就職状況は?!＞△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

介護福祉士課程の卒業生は、ほとんど鹿児島県内に就職しています。以下は、令和6年度の卒業生の就職状況です。

公務員	3名	鹿児島県：1名 市役所：2名
福祉・介護	1名	高齢者領域
企業	3名	

卒業生の進路は多岐にわたり、公務員、介護・福祉施設、一般企業などで活躍しています。介護・福祉の現場では、部長・課長・リーダーとして責任ある立場で働く卒業生がほとんどです。さらに数年後には、ケアマネジャーや施設長として活躍するほか、介護事業所を起業したり、大学教員として専門性を発揮したりする卒業生もいます。

求人については、介護福祉士と社会福祉士のダブル資格を取得した場合は91%の求人に対応できます（社会福祉士のみは66%の求人に対応できます）。

<在学生の様子を紹介します！>△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

*******【新入生歓迎スポーツ×カードゲーム交流会】*******

6月4日、新入生を歓迎し、学生同士の交流を深めることを目的に開催しました。今年は1年生から4年生までの31名の学生が参加しました。まずはカードゲームで親睦を深めました。トランプやUNO、人気のボードゲーム ito など、各テーブルでは笑い声が絶えず、和やかな雰囲気の中にも白熱した勝負が繰り広げられました。続くスポーツ交流会では、カードゲームで培われたチームワークがさらに深まりました。得点が入るたびに自然とハイタッチが生まれ、会場全体が一体感に包まれました。最初は緊張していた1年生も、先輩・後輩の垣根を越えた交流を通してすぐに打ち解け、このイベントをきっかけに学生同士の距離が一気に縮まった様子が見られました。



*******【実技系授業の風景】*******

医療的ケア（喀痰吸引と経管栄養）と救急蘇生法の授業風景です。みんな真剣です！



*******【1～4年生合同で特別講義を受講！】*******

10月29日、介護福祉士課程主催による特別講義を開催しました。今回のテーマは「尊厳死について」。当日は、介護福祉士課程の1～4年生32名、大学院生1名が参加。外部講師の先生の豊富な現場経験をもとに、「苦しむ人への援助」や「5つの課題」について講話をいただきました。講義の中では個人ワークやグループワークも行われ、学年を超えた活発な意見交換が行われました。

学生からは、「理想と現実のギャップが苦しみになることを実感した」「コミュニケーションの取り方で相手の思いをキャッチできることに気づいた」「苦しむ方への言葉のかけ方や、反復と沈黙の重要性を学んだ」といった声が多く寄せられました。本講義を通して、学生たちは“人の尊厳を支える支援”について改めて深く考えることで、介護福祉士・社会福祉士としての専門性と人間性の両立を目指す姿勢を、さらに強く意識する貴重な学びの時間となりました。



*******【「認知症普及啓発イベント」にボランティア参加】*******

10月19日、鹿児島県が主催する認知症普及啓発イベント「認知症をみんなで学び体験しよう！」に3年生5名がボランティアとして参加しました。このイベントは、認知症に対する偏見をなくし、誰もが安心して暮らせる地域社会を目指すことを目的としたイベントで、ステージや体験・認知症関連作品展示ブースなど、認知症について楽しく学べる盛りだくさんの企画が用意されました。学生たちは、認知症の症状を疑似体験できる「VR（仮想現実）認知症体験」のブースを担当させていただきました。参加後、学生たちからは「来場者の方々が熱心に話を聞いてくださる姿にやりがいを感じた」「来場者の方々に認知症について伝えるなかで、自分自身も改めて正しい知識や接し方を学ぶことができた」「一緒に考えたり質問に答えたりしながら、認知症への理解を深めてもらえることができて嬉しかった」「みんなで支え合い、誰もが暮らしやすい社会になってくれたらいいなと思った」などの感想が聞かれました。なお、今回ボランティアに参加した学生は、いずれも認知症サポーター（認知症サポーター養成講座受講済み）です。



*****【「介護の魅力」をラジオで発信】*****

10月18日、MBCタレントの川原田優華さん（2018年度本学社会福祉学科介護福祉士課程卒業生）がパーソナリティを務める「ふくしのラジオ！」に今年も参加しました。このラジオ収録は、川原田さんの協力のもと11月11日の“介護の日”のイベントの一環として開催されたもので、県内4つの介護福祉士養成校の学生代表がMBCスタジオに集まり、介護の魅力を発信する企画です。本学からは介護福祉士課程4年生の吉見悠斗さんと末吉拓馬さんが出演し、トークを主導してくれました。末吉くんは「利用者様の身の回りの支援も大切であるが、利用者様が望む生活をできる限り実現できる介護を目指すことが大切であると思う」、吉見くんは「ラジオを通して他校の方たちの介護に対する考え方や介護の道に進むきっかけを知ることができた。このラジオをきっかけに、少しでも若者が介護に興味をもってくれたら」と話してくれました。



【大和村フィールドワーク～村民主体の互助力を活かした地域づくりから学ぶ～】

大和村フィールドワークが2月4日から4日間の日程で行われ、介護福祉士課程の学生10人が参加しました。学生たちは村内に宿泊しながら、大和村の福祉サービスを体験。障害者支援ボランティア団体では一緒にものづくり、デイサービスでは利用者の方々とコミュニケーションを図り、特別養護老人ホームでは風船バレーのレクリエーションを行うなど交流を図りました。また、集落を散策しながら村民の生活の様子や助け合いの活動について聴き取りをしたり、地域の支え合い定例会に参加し、地域住民による集落ごとの地域づくりへの取り組み報告を聞いて意見交換を行ったりと、若者視点で地域資源の発見や課題解決に取り組みました。インフラ資源が限られた環境を背景に、村民主体の互助力を活かした地域づくりの実態を学ぶことにより、地域包括ケアを支える福祉専門職としての実践能力を養うことができました。参加した学生は「地域住民が支え合いながら生活している姿を目の当たりにし、人々の温かさと自然の美しさに癒され、大和村の魅力を感じることができた。さらに、役場職員の方々と各施設の担当者、ボランティア団体の皆さんと貴重な対話や活動を通して、大和村がどのような支援を地域住民や高齢者に提供しているのかを学ぶことができた。今後、私たちが福祉に対してどのような意識を持つべきか、そして福祉分野の担い手としてどう行動すべきかを真剣に考え、行動していきたい」と感想を述べました。



おわりに

みんなで、ダブル資格取得を目指して頑張ろう！！



4-4 教職課程（特別支援教育実習を中心に）

文責 古賀 政文

教職課程は、特別支援学校教諭、高等学校教諭（福祉、公民）、中学校教諭（社会）の教育職員養成を目的とする課程です。本学科では、それぞれの免許状取得のため、主に5月から6月に掛けて中学校・高等学校での教育実習を、9月から10月に掛けて特別支援学校での教育実習を行っています。

今年度も、計画どおりに教育実習が実施され、成果の多い教育実習でした。今回は、特別支援教育実習や特別支援教育実習報告会での様子を中心に紹介します。

特別支援教育実習の成果と課題（学生が提出した報告書を一部抜粋）

成 果

- 事前授業で、国語の授業で【カード遊び】でカルタを行った。カルタを前時に取り扱った絵本の内容から作ったので、子供たちにとってもやりやすかったと感じた。
- 評価授業では、図画工作の【紙で飾ろう】でペットボトルランタンを作成した。事前に作っておいた見本を提示することで児童たちの意欲を出すことができた。
- 生徒一人一人の様子をしっかりと観察し、授業の中で視覚支援を工夫することで、生徒の主体的な行動を引き出すことができた。
- 現場でのCT・STの立ち位置や役割についてより深く理解することができた。
- 障害の特性だけでなく、支援の方法・授業の組み立て・環境づくりの重要性を理解することができた。
- 中学社会の教育実習の時よりも自信をもって表情豊かに授業を行うことができ、また、入念に準備をしていたことでハプニングがあっても慌てずに解決できた。
- 「生徒への言葉かけ」である。授業中はもちろんのこと、休み時間や給食、日常生活など、様々な場面で、生徒の障害の程度、特性に応じた言葉掛けを行い、実習が進むにつれ、生徒とも打ち解けてきた。
- 授業や学校生活における児童生徒と関わりの中で、多くの工夫や学力に合わせた指導方法を学ぶことができた。特に、各クラスでICT教材の内容が異なっているため、どのような教材を使用するべきかを学ぶことができた。
- 児童生徒や教職員、授業においても、丁寧な言葉遣いを心掛け、コミュニケーションを取れるようになった。多くの生徒とコミュニケーションをとることができた。

課 題

- 児童のできた、分かった等について、褒め言葉等が少ない点と授業での流れを優先してしまい、読み手の活動ができなかった児童がいた点である。原因として、児童の実態把握不足と言動の予測ができていなかったと考えられたので、気を付けていきたい。
- 製作工程でトラブルが起こってしまい、その対応に追われ、声掛けや観察ができておらず、時間も押してしまい、終末の発表の時間が十分に取れなかった点である。他にも、「生徒からの視点をより意識したほうが良い」との指導・助言があった。

- 急に情緒不安定になった生徒に対する対応には課題を感じた。臨機応変な支援力を高めるために、今後実践を繰り返し重ね、支援の引き出しを増やしたい。
- 生徒の実態把握が不十分であった。
- 生徒それぞれに合った授業展開をする場合、生徒の実態把握が必須となる。そして実態は生徒との関わりや日常生活の様子を見て把握することができる。授業では実態把握が深くできておらず、生徒が力を最大限発揮できる環境を作ることができなかったため、生徒と交流をする機会を増やす必要があったと感じた。
- 指導案の書き方に慣れてないこともあり、学習指導案(細案)の提出が評価授業前日のギリギリになってしまった。
- 授業を行う中で、生徒が主体的に考えて「できた」と生徒が思うような授業づくりを十分に行えなかった。生徒の実態をよりの確にとらえ、それに応じた教材研究を行うことでよりよくなると感じた。
- 教材準備をより深く広く行う。
- 授業を行う際の授業準備、教材研究が足りないと感じた。比較的何事にも理解のある生徒が多いクラスで授業を行ったが、生徒が見通しをもてずに授業をスムーズに進めることが難しかった。
- 生徒との関わりを深く取れなかったことが課題となった。もう少し関りを深く取れば授業も楽しいものになったと考える。

特別支援教育実習報告会

- 令和7年12月12日(金) 13:10～16:10 528・522教室

特別支援教育実習を行った学生と来年度教育実習を行う予定の3年生が参加しました。まず、二つの分科会に分かれて、報告・質疑応答等を行いました。次に、全体会で、分科会の報告と教育実習日誌指導案についての協議を行いました。司会や記録は3年生が行い、学生主体の報告会ができるようにしています。以下、その様子を紹介します。

分科会での質疑応答等

- ・ CT(チーフ・ティーチャー)とST(サブ・ティーチャー)の違いは何か。また、具体的な関わり方での留意事項は何か。
 - ➔ CTは全体の授業をつくる・進める主指導者、STは個々の支援を行う副指導者。(CT、STと呼ばず、T1、T2と呼ぶ学校もある。全ての教師が授業を進める主体であることを意識することが必要である。)指導教員にSTをお願いする場合は、授業中の子どもの様子を確認し、自分のやりたいことを伝えることが必要である。事前に多くの情報を得るとともに、綿密な打ち合わせをすることが大事である。STの場合は、どのようなサポートが必要かを具体的に質問し、アドバイスをもらう。
- ・ 教材・教具を作成するために掛かる時間はどのくらいか。
 - ➔ 1日半ぐらいにはなる。(2～3時間で見通しはもてるようになる。)カラー印刷をしたり、カードの角を丸くしたりするなどの工夫が必要。
- ・ 実習前に準備しておいた方がいいことは何か。
 - ➔ 指導案が書けるようになる。(各学校から書式等の提供があった。)

食事介助や排せつ介助についての知識が必要な場合もある。

体力づくりや健康を整えることが必要である。

特別支援学校でのオリエンテーションで、担当する学級の子どもたちの興味・関心があるアニメなどの情報収集ができ、有効であった。

- ・ 授業中の生徒への言葉掛けで留意することは何か。
 - つまづいている子どもに対しては、何に困っているのか、どこが分からないかを、具体的に聞くことが必要である。
 - できている子どもにも、できている部分を称賛したり、もっとよくなる工夫がないかを、アドバイスしたりした。
- ・ 生徒との適度な距離感を保つためにどんな工夫をしたか。
 - 抱き付いてくる生徒がいたが、そのことを直接注意するのではなく、例えば、「何年生だったけ?」「今、何の時間?」など、生徒がその行動を考えることができるような言葉掛けをした。



全体会での教育実習日誌についての質疑応答等

- 省察は、特別支援教育実習の2週間を通じて、各自が追求したいテーマに沿って記述する。振り返りは、1日の中で、特に、考察したいことなどを記述する。
- ・ 実習記録はどのような時間帯にどの程度の時間で記入したか。
 - 児童生徒が下校してから記入した学生もいれば、学校にいる時間帯は、教材研究を行い、帰宅してから記入した学生もいた。
 - 時間については、1時間程度の学生もいれば、下書きをしてから記入するため1時間半は必要だったという学生もいた。

全体会での指導案についての質疑応答等

- 学校によって、細案か略案が異なる。いずれにしても、単元（題材）全体の目標や本時の目標をしっかりと押さえて記述してほしい。
- ・ ペアで授業を行う場合、一人で作成するのか、それとも、一緒に作成するのか。
→ 配属学級で異なっていた。
- ・ 指導案を作成する際に難しいところはどんなところか。
→ 略案は個人目標の具体的な述べ方に苦勞した。評価との関連も検討した。
細案は単元（題材）全体を述べる必要があり、全生徒の実態を把握するのが難しい。
- ・ 生徒の実態はいつ調べるのか。
→ 普段の授業の中での観察や生徒との直接的な触れ合いで実態把握をしたり、興味・関心についてのアンケートを取ったりした。
- ・ 指導案を作成する際に苦勞したことは何か。
→ 各生徒が該当する段階を、学習指導要領の目標・内容から探し、それを指導案の目標や指導内容に落とし込むのに苦勞した。

全体会での指導助言

- 教育実習は失敗してもよい機会である。失敗から学ぶことも多い。
- 自分の「得意」を見付けることが強みになる。好きなことを生かす。
- 授業中の子どもの表情や視線などを見るのが大事である。
- 子どもの小さな成長の変化に喜びを感じることができると、特別支援教育である。
- 分からないこと等は指導教員等に積極的に学ぶことが必要である。
- 積極的に学校を参観してほしい。
- 教師同士の人間関係が重要である。
- 生徒との適切な距離感を保つことが大切である。



5 地域福祉への道－32年を振り返って

高橋信行名誉教授 最終講義

社会福祉学会運営委員 松元 泰英

2025年7月12日(土)14時より、8号館2階8231教室にて、福祉社会学部研究委員会および社会福祉学会の主催により、昨年度ご退職された高橋信行名誉教授の最終講義が開催されました。開会にあたり、中村学部長よりご挨拶をいただき、続いて高橋名誉教授による最終講義が行われています。講義のテーマは「地域福祉と地域探究の視角－32年を振り返って－」でした。鹿児島に焦点を当てて執筆された3冊の著作の紹介に始まり、清水基金プロジェクトの最終報告集『地域探究の視角』の制作秘話、『わたしはどのようにしてソーシャルワーカーになったか』『オンリーワンの福祉計画』などの著作にまつわるエピソードが、ユーモアを交えて語られ、会場は終始、笑いと共感に包まれていました。

講義終了後には、高橋先生が持参されたギターで吉田拓郎の楽曲を披露される一幕もあり、参加者はスマートフォンで写真や動画を撮影するなど、感動的な雰囲気にも包まれました。続いて、茶屋道学科長による閉会の挨拶、小林学長による総括が行われ、最終講義は盛況のうちに幕を閉じました。

なお、高橋名誉教授より心温まる文章をお寄せいただいておりますので、以下にご紹介いたします。

地域福祉への道－32年を振り返って

鹿児島国際大学名誉教授 高橋 信行

この原稿は、主に本年7月12日の最終講義での話を書いているが、そのなかで十分触れることができなかつた問題に力を入れて書いている。

1. 東京→北海道(紋別市)→鹿児島

もともと駒澤大学の学部、大学院までは社会学を学んでいた。その後駒澤大学で助手を3年間やり、その時は福祉学と社会学の助手で福祉実習指導に関わり、社会福祉を学ぶ学生との交流を深めた。助手の研究室には社会学を学ぶ学生と社会福祉を学ぶ学生が出入りし、にぎやかだった。その後北海道紋別市の道都大学で7年間教鞭をとったが、この時も半分は社会学、半分は社会福祉を教えていた。

7年間の間に、多くの地域の高齢者調査を行った。自分にとっては社会調査の方法が、社会学と福祉学の橋渡しをしてくれた。地元の紋別市以外にも士別町、津別町、清里町、小清水町、留辺蘂町、上湧別町などなど、今では自治体名も変わってしまった所もあるが、こうした地域調査が今の地域福祉論の礎になっているようにも思う。もうあらためてふりかえる機会はないかもしれないが、30代で血気盛んだった頃の北海道生活についてどこかで書きたいなと思うところだ。

鹿児島に来た(1993年)頃は、「北の福祉、南の福祉」というタイトルで、ラーメンや焼酎等の話もしたりした。意外とオホーツクと離島との共通性も感じていた。ここからは完全に社会福祉の教員として「地域福祉論」を中心科目に教えることになった。ただマインドとしてはやはり社会学をベースにしているということは、今またあらためて感じるところである。

2. 鹿児島に焦点を置いた3つの書籍のこと—社会福祉を鹿児島から発信することの意味

＜社会福祉の今ここで＞鹿児島にきて早々に、建昌福祉会の伊東安男理事長のお誘いで、福祉21研究会（後のNPO福祉21かごしま）という福祉関係者の集まりに参加させていただいたのを契機に、3冊の本づくりの手伝いをしたのは意義ある仕事だった。最初の本のあとがきに次のように書いた。「社会福祉の概論書は、福祉ブームを反映してか、山ほど出版されている。しかし多くの概論書が、東京から全国を眺めたようなものであったり、地域的な特性を捨象した国の施策を中心に述べたものであったりする。もっと自分たちの生活の基盤となっている地点から社会福祉の問題を考えていくべきではないかと常々考えてきた。・・・」『鹿児島の福祉』1998 地方の大学は地元地域を中心に福祉専門職を養成している。その意味で、「ここ」にこだわり、また変化の多い福祉の世界で、「今」現場で何が起きているのかを理解する必要があると考えた。

- ① 『鹿児島の福祉』（かごしま文庫50）福祉21研究会 春苑堂1998
- ② 『現代社会福祉：鹿児島からの発信』NPO福祉21かごしま（監修）ナカニシヤ出版2005
- ③ 『福祉実践と地域社会：鹿児島の人と福祉のあり方』 NPO福祉21かごしま（監修）高橋信行・久木元司（編集）ナカニシヤ出版2010年

3. 社会についての2つの見方—社会静学と社会動学 <社会福祉のダイナミズム>

初期の社会学者は、社会を止まった状態（静学）としてみる視点と変化する視点（動学）との2つを持っていた。静学的に社会福祉を考えると、それぞれの課題に対して用意された制度のなかで機能的に働いているように見えるが、動学的にとらえると、それぞれの制度も一過性であり、次々と新たに変化している。社会動学の視点を取り入れると社会福祉の教育カリキュラムには、歴史の側面と現状の課題とそれを乗り越えるための方法等についての言及が必要になる。

4. 地域福祉そして目的合理性と価値合理性

地域福祉のポイントは「在宅ケア」と「地域組織化」にある。在宅ケアは自身の生活空間を離れた施設に入所してケアを受けるというよりは、住み慣れた地域の中で自身を生活の主人公として、ホームヘルプサービスやデイサービス等を利用する在宅ケアの意味である。「住み慣れた地域で安心して暮らす」これが地域福祉の命題のように言われたりする。しかしこれは地域福祉の理念や価値、いわば価値合理的側面と言える。実際に在宅ケアが推進されてきた背景には、それが効率的であるとか安上がりであると考えられてきた側面がある。これはいわば目的合理的側面といえることができる。家族ケアを前提にすると、施設ケアよりは在宅ケアは効率的に進められるという施策上の判断があったと思う。しかし一人暮らしの人が多くなり、またサービス提供事業者の不足する過疎地域では、必ずしも在宅ケアが安上がりとはいかなくなっている。また地域には住み慣れた人ばかりではないことにも留意が必要だ。

話は変わるが、イギリスで孤独省がたちあがった時に、当時のメイ首相は次のように語った。「多くの人々にとって、孤独は現代の生活の悲しい現実です。私はその現実に向かい、我々の社会や高齢者や介護者、愛する人を失った人々—そして自分の考えや体験を話したり分かち合う相手のいない人の孤独に対して、行動を起こしていきたい」と。ただジョー・コックス委員会は「孤独がイギリスの国家経済に与える影響は、年間320億ポンド（約4.9兆円）に上る」と述べている。（HUFFPOST 2018）メイ首相は孤独の価値的側面について語り、ジョーコックス委員会はその経済的影響に言及している。言葉を換えて言えば、メイ首相は孤独を価値合理的に語り、委員会は目的合理的に語った。

目的合理性は、効果的か否か、損得での判断、価値合理性は、善や正義と結びつく。そして、社会福祉実践は目的合理性と価値合理性のバランスの中で展開されているものだろう。しかししばしば、事業を展開する時には、目的合理性は隠され、価値合理的にしか述べられないこともある。

地域福祉のもう一つのポイントは、「地域組織化」といわれる側面である。さまざまな地域での支援に地域住民が主体的に参加している。ボランティアな活動、インフォーマルな活動を含め、場合によっては新たな活動を創設している。行政や専門職にお任せにするのではなく、福祉活動を住民主体で行うことの意義は大きいと思うが、費用を軽減する意味で、ボランティアや住民の力を借りようとする目的合理的な意味もあるかもしれない。

5. 弁証法について考える

「100分で名著」というテレビ番組NHKで「ヘーゲルの精神現象学」を取り上げていた。哲学書でも難解とされるこれをなぜ今取り上げるのかと思ったが、どうもキーワードは「弁証法」で、論破王が横行し、勝ち負けだけの議論への警鐘のようだ。ディベートが行われるようになり、議論を発展させるより、いかに相手を打ち負かすのかに比重がかかる。ニッセイ基礎研究所土堤内昭雄氏は、ディベート型社会では、弁舌の立つ人の主張が正論のように取り扱われる。そこに反対意見があれば、激しい軋轢が生じ、立場の違いは論理と論理のぶつかり合いとなり、お互いの力づくの説得が問題解決の方向性を決めてゆく。もう少し相手の主張に耳を傾けるダイアログ型の社会を推奨する。最初から自己の正当性を相手に押し付けるのではなく、相手の主張を理解するために相互の共通点を探し、相手のものの見方を観察する。それによって自論が変わることもあり得るという。

弁証法では正と反が対立した後に、それを統合して合という、高い次元の結論を導く。とはいうものの、合への道は容易なことではないが、土堤内氏が述べるダイアログ型も一つの答えだろう。

6. マイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」(2010NHK)の結論

最後に、弁証法とも関連するが、学生同士が議論を戦わせる「サンデル教授の白熱教室」のことを話したい。サンデルが「政治哲学」の講義のなかで紹介した主な考え方は、「功利主義」、「リベラリズム」、「共同体主義(コミュニタリアニズム)」などである。功利主義は、最大多数の最大幸福、リベラリズムは、少し複雑で自由放任派と公正派とでは立場を異にする。自由放任派(リバタリアン)は、自由市場を信奉し、選択の自由を尊重する。公正派は社会的・経済的に不利な状況を是正し、機会の平等を目指す。日本では「リベラル」という言葉が多義的用いられるので、注意が必要だ。「共同体主義」は、公正な社会である種の美德や善良な生活の概念が肯定されるという考え方で善を信奉する。ここではサンデルの講義で最後の方に議論した「同性結婚」をめぐる問題を紹介する。

同性結婚をめぐるスリリングな学生たちの討論

最初に学生が宗教的な立場から「結婚は、生殖と関係し、子どもをつくり、育てることを主な目的とする。同性結婚では子どもが生まれず」と否定的な見解を示す。すると、反論がでる。それなら「不妊のカップルや高齢者は結婚できないのか」と。目的論的な結婚についての考えに対して批判的な見解が続き、誰と結婚しようが自由であるなどの意見も出てくる。自分は同性結婚には反対だが、他の人がしてもかまわない。ある学生たちは、国家は中立的な立場にたつことはできない。同性結婚の問題を議論するには、結婚の意味や目的を議論せずにいることはできないと言う。

サンデルは、マサチューセッツ州の最高裁判所での同性結婚についての判決を参照しながら、その経過を述べる。はじめは裁判所の話はリベラルな中立性からはいる「多くの人は結婚は男女間に限るべきであり、同性愛行為は道徳に反するという強い宗教的、道徳的な信念を持っている。同時に多くの人が、同性愛者には結婚する資格があり、彼らは異性愛者と等しく扱われるべきだ」という、同様に強い宗教的、道徳的な信念を持っている。どちらの見解も、我々の前にある問題には答えていない。重要なことは、個人の自律性と法の下での平等の尊重である。重要なことは、個人が2人だけの約束を交わす相手を自由に選ぶことである。」

しかしその後、裁判所は同性結婚を認めるためにリベラルな主張を超えて結婚を定義する。なぜなら、それぞれの見解が違うことを認めると、国がそれをなぜ承認するのかとなるから

だ。「民事婚は深く個人的な約束である一方で、相互関係、交友、親密さ、貞節、家族の理念に対する公的な賞賛でもある」「生殖ではなく、パートナーのお互いに対する恒久的な約束が結婚の本質的な点であり、目的なのである」とまとめる。つまりみんな考え方が異なっているからそれでいい、ではなく、結婚そのものの定義を広げて必ずしも生殖を前提にはしないという結婚の定義に広げ、結婚そのものの価値や善としての側面は肯定するわけである。

もちろんこれは、学生の議論の結果として導いたものではない。ただ、サンデルは「みんな考え方が違うんだからそれでいいじゃないか」とは言わない。個人的趣味のレベルを超えて、公共性の問題では、どこかに合意点や着地点が必要だからだろう。そしてこの結論も弁証法の結果としての正反合の一例であるように思われる。



おわりに スタートレック (テレビドラマ) は「出会い」だ

この写真は実はスタートレックのコスプレだ。スターウォーズが「戦争」なら、スタートレックは「出会い」だ。昔からスタートレック「宇宙大作戦」のファンだったが、その後DVDを買いあさり、この長いドラマをみてきた。スタートレックは、異形のもの、エイリアンとの出会い、宇宙の人たちとの、時には対立（戦争にもなる）と和解がテーマであったりする。それは地球のなかで絶えず起きている紛争や差別の問題を反映しているように見える。戸惑いながらお互いが理解しあうこと。

そして長い長い物語だ。最初の「スタートレック」は公開が1966年から3年、次の「ニュージェネレーションズ」が7年、「ディープスペースナイン」が7年、「ヴォイジャー」が7年、時代が戻って「エンタープライズ」が4年、配信サービス等になってからも「ディスカバリー」、「ストレンジニューワールド」など、今でも続いている。スピンオフ版や映画版なども数多く作成されている。物語の背景には多様性の尊重などの価値が見える。主人公の船長も、初代カークはアメリカ白人男性だったが、次はフランス人（設定上）、黒人、女性など、さまざまな人が船長を演じている。これも当時としては革新的であった。

こうした多様性の尊重は、当時のアメリカの価値を反映したものと考えていたが、今や自分たちが画面を通してあこがれたアメリカの民主主義は風前の灯のように見える。

最後に、みなさん「長寿と繁栄を」（スタートレック内のミスタースポックの言葉）

文献

HUFFPOST「孤独担当大臣」とは？ 新設されたイギリス、「孤独」の国家損失は年間4.9兆円 2018年 1月18日記事 泉谷由梨子

https://www.huffingtonpost.jp/2018/01/17/may-loneliness_a_23336292/ 2022.5.3

土堤内昭雄 ニッセイ基礎研究所

<https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=41313?site=nli> 2025.9.26



6-1 社会福祉学会における自主研究助成について

林 岳宏

鹿児島国際大学社会福祉学会においては、「鹿児島国際大学社会福祉学科位・学生会員の自主的な学習・研究活動の活性化を図る」ことを目的に、自主研究助成を行っています。助成の対象は、「自主研究（ゼミを含む）や特色あるボラティア活動・実習活動報告等とする」とされており、1件あたり5万円を上限として総額15万円までの助成額となっています。例年、毎年5月から6月にかけて申請の受付を行っています。個人申請の場合は本人名で、共同申請の場合は研究代表者名で申請の手続きを行っていただきます。申請順に審査内容を審査し、採否については6月末に通知するスケジュールとなっています。研究成果発表は、研究成果報告書を学会運営委員会に提出していただき、本誌「ゆうかり」に掲載することとなっています。なお、本助成は、以前は「博士論文・修士論文・演習論文」は対象外でしたが、現在は助成対象となっています。ただし、各論文の要旨等をそのまま報告書として提出することはできません。

さて、本年度は、1件の申請があり、助成対象として採用されました。助成採用時点での研究課題は「地域で自分らしく生活するとは」（代表：久保明日香さん [社会福祉学科1年]、他学生1名、教員1名）です。最近は、ゼミ単位や大学院生による研究助成が続いていました。今回は、介護福祉課程の福永宏子先生の指導のもとで行われる、1年生2名による離島への実態調査が助成対象となりました。審査と研究スケジュールの都合上、本原稿執筆時点で報告会は開催されていませんが、本誌「ゆうかり」では研究紹介・報告を行っていただきます。

この場をお借りして、本助成に関する私見を述べさせていただきます。以前は、博士論文・修士論文・演習論文が対象外となっていたことから、学生の皆さんにとってチャレンジしにくく感じる点もあったように思います。しかし、上述のとおり、現在は助成対象となっています。また、今回助成対象となった研究のように、遠方への実態調査も対象となります。今後も、ゼミ単位や大学院生の皆さんのみならず、1年生を含めた多くの学生の皆さんにチャレンジしていただきたいと思います。ただ、現状でも、助成対象となってから発表までのスケジュールがタイトであることなど、制度上の課題はあると考えています。本学会での助成のあり方は、国の方針にも沿うものであり、大変貴重なものであると考えます。今後も、自主研究助成の方法等について、運営委員会や総会等で議論が重ねられればと考えている次第です。

最後に、末筆ではございますが、本学会の発展とともに、会員の皆様の研究活動のさらなる推進を祈念いたします。

6-2 研究報告：地域で自分らしく生活するとは

1年1組 久保明日香

1年3組 山内ちやこ

1. 背景

日本では現在、急速な高齢化に伴い、住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らすことを目指す「地域包括ケアシステム」の構築が進められている。特に地方や離島では若年層の流出により高齢化率が全国平均を上回る地域も多く、地域によって医療・介護資源や人材の確保状況には大きな差があり、特に離島部では制度の運用においてさまざまな課題が生じていることから、支援のあり方を考える必要がある。

2. 目的

大島郡与論町（以下与論町）と鹿児島市における生活環境や介護体制にはどのような違い、そして資源の制約がある中で人々が島に住み続ける理由は何かという点に着目した。現地で介護現場の視察やインタビュー調査を通じ、「住み慣れた地域で最期まで自分らしく生活する」とはどういうことなのか、その実態と本質を明らかにすることを目的とする。

3. 調査方法

調査対象地域は、与論町および鹿児島市である。与論町は、面積 20.58km²、人口約 5,000 人の離島であり、高齢化率は 35% に達している。医療資源や介護サービスが限られた環境にもかかわらず、多くの人が島での生活を継続している。鹿児島市は、鹿児島県では最も大きな都市であり、医療資源や介護サービスは選択が可能である。面積 547.55km²、人口 593,128 人で高齢化率は、28.3% である。

大島郡与論町社会福祉協議会ホームケアステーションよろん、鹿児島市の訪問看護・訪問介護ステーションココレへ訪問し、サービス提供責任者へのインタビューと利用者宅への訪問介護同行訪問を実施した。その結果を比較・分析を行った。

4. 結果

調査の結果 3 つの明確な相違点と共通する課題でありながら状況が異なる 1 点が明らかになった。

(1) 公共交通機関

鹿児島市では、バス、電車、市電といった多様な公共交通機関が整備され、高齢者の移動手段の選択肢が広い。

一方、与論町では公共交通機関はバスのみでありその便数は限られ、自宅からバス停までの距離が遠いなどの理由から、高齢者による日常的な利用は限定的である。現地調査では、高齢者が自転車やシニアカーといった自力移動手段に大きく依存している実態が確認され、この点が本島との移動における大きな差異として認められた。

(2) 訪問介護サービスの提供効率

与論町では面積が約 20km² と狭小であるため、訪問介護事業所は効率的に利用者宅を巡回することが可能であり、訪問介護サービスの提供における移動コスト（時間・距離）が低い。

一方鹿児島市では、対応範囲が広く、利用者宅が分散しているため、介護職員の移動時間が長くなり、訪問効率が低下する傾向にある。

(3) 地域との関係性の深さ

与論町では、地域の繋がりがとても密であり、近所の方はみな付き合いが長く、密な関係が築かれている。その一方でプライバシーが守られていなかったり、人間関係のトラブルが起きる課題も見られた。

一方鹿児島市では、マンション等では近所付き合いは少なく、地域全体で高齢者を守るような関係性は築きづらく、地域とのつながりが希薄であると感じた。そのため一人暮らしの高齢者が体調を崩し倒れてしまってお、周囲が気付く可能性は低く相談できる人や日常的に話をする人が少ないため、孤立してしまう課題が見られた。

(4) 人材不足（共通課題）

与論島では、根本的に人手が不足しており、訪問支援を断らざる得ない状況に陥っている。一方鹿児島市では支援範囲が広く移動時間が長いため、1人の訪問介護員が訪問できる件数に限りがある。

いずれの地域においても人材不足は深刻であることが明らかとなった。その影響で施設の入所待機者が一定数いる状況である。

5. 考察

鹿児島市と与論町を比較すると、生活環境や介護体制においていくつかの違いと共通する課題が見られた。鹿児島市は公共交通機関が充実しており、高齢者の移動手段が多様である一方、訪問介護では対応範囲が広く、移動時間が長くなることで職員の負担が大きくなる傾向があった。また、都市部では人間関係が希薄になりやすく、地域とのつながりが弱いという課題もある。

一方、与論町では交通手段が限られており、高齢者は自転車やシニアカーに頼る場面が多く見られたが、地域のつながりが強く、近隣住民による見守りや支え合いが機能していた。訪問介護においては、地域が狭いため移動効率が高いという利点があるが、そもそも人材が不足しており、支援を断らざるを得ない状況もあった。

両地域とも人手不足という共通課題を抱えており、それぞれの地理的・社会的特性に応じた支援体制の工夫が求められる。

6. まとめ

「地域で自分らしく生活し続ける」とは、これまでの人生で築き上げてきた人間関係を維持し、高齢になっても地域との関係を持ち続け、今まで通りの安心した生活を送る事である。それはそれぞれの生き方を続け、自分は生まれ育ってきた地域の一員であると言うことを自覚することであると考え。そのためには、住まいを中心として、医療、介護、生活支援、介護予防が一体的に提供される、地域包括ケアシステムが必要不可欠である。

参考文献

鹿児島県の高齢化率 <https://www.pref.kagoshima.jp/ab13/kenko-fukushi/koreisya/koreika/koureikaritu.html> (2025.12.10)

鹿児島市の概況（鹿児島市ホームページ）<https://www.city.kagoshima.lg.jp/> (2025.12.10)

与論町の概況（与論町ホームページ）<https://www.yoron.jp/> (2025.12.10)

厚生労働省（2023）「地域包括ケアシステムとは」https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/ (2025.12.10)

鹿児島国際大学社会福祉学会会則

【総 則】

第1条 本会は、鹿児島国際大学社会福祉学会と称し、本会の事務所を鹿児島国際大学福祉社会学部社会福祉学科に置く。

第2条 本会は、学術研究を推進し、会員相互の学問的交流を促進するとともに、地域社会の文化的発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
(ア) 会報ならびに機関紙の編集・発行
(イ) 研究会・講演会等の開催
(ウ) その他、本会の目的を達成するために必要と認められる事業

【組 織】

第4条 1. 本会は、福祉社会学部社会福祉学科並びに大学院福祉社会学研究科に在籍する学生および両科の専任教員をもって会員とする。
2. 準会員については、別に定める。

第5条 1. 本会に次の機関を置く。
(1) 会長
(2) 総会
(3) 運営委員会
(4) 監査委員
2. 会長は、社会福祉学科長とする。
3. 運営委員(教員4名、学生8名以上)および監査委員(教員2名、学生2名)は、社会福祉学科で選出し、総会の承認を得るものとする。
4. 前項の各位委員の任期は、教員については2年、学生委員については1年とする。ただし、再任は妨げないものとする。

【機 関】

第6条 1. 会長は、本会を代表する。
2. 会長は、年1回の定期総会を招集しなければならない。
3. 会長は、運営委員会の議決に基づいて臨時総会を招集することができる。

第7条 総会は、本会の最高議決機関である。

第8条 1. 運営委員会は、総会の承認により、学会の運営にあたる。
2. 運営委員会は、委員長(教員)と副委員長(学生)の各1名を互選する。
(1) 運営委員長は、運営委員会を代表し、定期および臨時に運営委員会を招集する。
(2) 運営委員会は、そのもとに必要に応じて委員会を置くことができる。
3. 運営委員会は、教員委員および学生委員のそれぞれ過半数の出席によって成立する。

4. 運営委員会は、次の事項を審議決定しなければならない。
- (1) 年間事業計画
 - (2) 予算案および決算書
 - (3) 会則の改正ならびに諸規定承認・改廃
 - (4) その他必要な事項
5. 運営委員会の議決は、出席した教員委員および学生委員のそれぞれの過半数の賛成で決する。

[財 政]

第9条 教員会員の会費は、年額2,500円とし、年度初めに納入する。学生会員の会費は、年額2,500円とし、入学時に一括納入する。

第10条 1. 本会の経費は、会費・補助金・寄付金でまかなう。
2. 会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

第11条 会費の徴収、保管および支払いについては、大学事務局に委任するものとする。

第12条 運営委員会は、毎年会計年度終了後2ヶ月以内に決算を行い、監査委員の監査を受けたいえで総会に報告し、その承認を得なければならない。

[改廃手続]

第13条 本会則の改廃は、運営委員が発議し、総会の決議を経なければならない。

附則

- 1. この会則は、昭和57年4月1日から施行する。
- 2. この会則は、平成13年7月27日に改正し、施行する。
- 3. この会則は、平成15年7月4日に改正し、施行する。
- 4. この会則は、平成18年4月1日に改正し、施行する。
- 5. この会則は、平成20年4月1日に改正し、施行する。



2024 (令和6年)年度 鹿児島国際大学 社会福祉学会 収支決算報告

(円)

摘 要		金 額	予 算
前年度繰越金		3,775,915	3,775,915
収 入	会 費	756,250	701,284
	参加費	0	
	雑収入	2,020	
	寄付金	0	
収 入 計		758,270	4,477,199
支 出	『演習論文要旨集』発行費	0	0
	会議費	0	10,000
	自主研究助成費	0	150,000
	新入生歓迎行事費	0	0
	卒業パーティー開催費	0	0
	『ゆうかり』発行費	472,890	472,890
	講演会開催費	0	0
	事務費	1,743	10,000
	通信費	550	10,000
	特別事業費	0	0
	学生アルバイト料	0	0
	会 費	20,000	20,000
支 出 計		495,183	672,890
当年度末残高		4,039,002	

編集後記

2025年度もあっという間に過ぎていきました。少し寂しい気持ちになっています。
そこで「2025年」をキーワードとして編集後記をまとめることとしました。

2025年というと、2025年問題という言葉を想起する方も多いのではないかと思います。2025年問題とは、いわゆる「団塊の世代」と呼ばれる1947～1949年に生まれた方全員が75歳以上の後期高齢者になることで起こる問題という意味を持ちます。つまり団塊の世代の方(出生数約800万人)を含めた後期高齢者(約2,100万人)を支えるための財源や人材が大量に必要となり「たいへんだ」という問題です。しかし一方で、日本は団塊の世代の方々が「75歳以上になることができる」「長生きできる社会」とみることでもできます。2030年、2040年を迎えるにあたって、長生きできることを問題としてではなく「よかったね」と考えることができるように多様な視点で考え、創意工夫していくことが私たちに求められています。

Let's do our best !

そんな2025年度の「ゆうかり」は、2024年度に退職された高橋信行先生の最終講義の記事や自主研究助成の研究報告、ゆうかり編集委員会企画のおすすめの本の紹介、また今年度着任された福永宏子先生、藤島法仁先生のご挨拶の記事など盛りだくさんの内容となりました。関係の皆様には、深くお礼申し上げます。また学生編集委員の皆さんは、忙しい中、編集委員会企画に積極的に取り組んでくれました。

Thank you !

最後になりますが、みなさん、「干支」ってご存じですか？

暦には、日付や曜日のほかにもその日の吉凶などの暦注が記載されているものがありますよね。この暦注の多くは中国の易などをもとに記載されるようになったもので、その核となるものが干支とよばれるものです。

12月も押し迫ってくると、「来年って〇〇年だね」という声がきかれたり、お店に動物の置物が並んだり、、と、そんな光景を見かけます。

「干支」とは、万物を構成するとされる「木」「火」「土」「金」「水」の五行を「陰」「陽」にわけた「十干」(10種類の文字)と「十二支」(12種類の動物)の組み合わせのことで、これらの組み合わせは60通りあり、60年で一巡します。つまり誕生から61年目は誕生時の干支に還るので、数え年で61歳の年は還暦(「暦」が「還る»)となり、お祝いをしたりします。

2025年の干支は、乙巳(きのとみ)でした。ちなみに「乙」は広がるという意味、また「巳」はヘビのことで、ヘビは脱皮しながら成長するので、再生という意味があるともいわれるようです。

みなさんの2025年はどうのような年でしたか？

参考

諸橋轍次(1968)『十二支物語』大修館書店、水上静夫編(1998)『干支の漢字学』大修館書店



2025(令和7)年度 鹿児島国際大学社会福祉学会 運営委員

社会福祉学会会長 茶屋道 拓哉

教員運営委員 林 岳宏(運営委員長) 岩崎 房子 福永 宏子 松元 泰英 山下 利恵子

学生運営委員

<講演会> 1年: 飯森 健弘 西嶋 龍之介

3年: 一ノ瀬 妃菜 岩下 歩夢 川原 采子 下鶴 千夏 日高 康汰 村田 勇磨
柳 和里 山之口 紗世

<ゆかり> 3年: 淡路 知愛 大久保 皓司 岡留 萌桃 種子田 明史 原田 昂志郎 益山 花葵愛
右田 希翔 安田 彩奈 米澤 勝貴

<自主研究助成> 1年: 佐立 暁 田中 友哉 山内 ちよこ

3年: 堂原 琴葉 西竹 大悟

<卒業生行> 1年: 今村 達也 岡元 和也 小崎 爽史 広浜 悠貴

3年: 岩崎 欽輝 久保田 星空 内 智花 中野 心麗 野間 翔太 肥後 良太

<会計監査委員> 教員: 永富 大舗 中井 康貴

学生: 大久保 皓司 右田 希翔

鹿児島国際大学社会福祉学会誌

ゆかり第25号

発行 2026年3月19日

編集 鹿児島国際大学社会福祉学会

住所 〒891-0197 鹿児島市坂之上8-34-1
Tel 099(261)3211(代)

印刷・製本 有限会社 広和印刷
Tel 099(222)3522



本誌ロゴ、ポポラスイラストに関しては、村上絢音さん、村上瑤子さんからのご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

